

特別支援学校の準ずる教育課程における国語科の単元構想

特別支援学校の準ずる教育課程においては小・中学校、高等学校の学習指導要領に準じて教科指導を行います。単元設定の際には、教科の目標や内容の系統性（学習指導要領）と児童生徒一人一人の育ち（個別の指導計画）の両面から授業を考える必要があります。

ここでは、小・中学部の国語科を例に、単元を計画する際のポイントを示します。

1 実態把握と教材研究

(1) 年度当初に、年間指導計画、個別の指導計画を立てる。

学習指導要領と児童生徒の実態を考え合わせ、年間（あるいは学期）の目標を立てます。また、教材配列、各教材の領域や指導事項を整理します。

(2) 単元構想時の実態把握と教材研究

ア 児童生徒の実態を多面的に把握する。

これまでの学習の様子、検査の結果、日常のやり取りや日記などを通して、以下の点を中心に実態を把握します。現在の様子、指導すればできること、環境を整えればできることなどに目を向けることで、単元の目標や手立てを明確にすることができます。

ア) 指導事項に関わる実態

これから学習する指導事項（学習指導要領解説「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）について、何がどこまでできているのか、どのようにできていないのかなどを分析します。

(イ) 教材に関わる経験や知識、興味や関心

(ロ) その他、自立活動に関わる実態

単元の目標（国語科の目標）を達成するために必要な指導・支援を考える手掛かりとなります。

イ 指導事項（身に付けさせたい力）と教材を確認する。

児童生徒の実態を踏まえて、指導事項や個別の指導計画から身に付けさせたい力を押さえます。次に、扱おうとしている教材が、それを身に付けるのに適した教材であるか確認します。

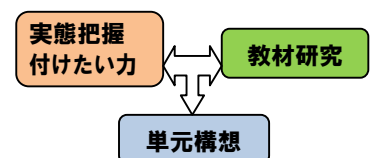
児童生徒の実態によっては、複数の教科書から教材を選択したり作成したりする場合もあります。その場合も、内容や語彙の難易度だけで判断するのではなく、身に付けさせたい力に適した教材にすることが大切です。

ウ 教材の特長を分析し、教材を通して、何を身に付けさせるのかを明確にする。

指導事項（身に付けさせたい力）に照らし合わせて教材を分析します。例えば、「△△の生育について、時間の順序を示す言葉を用いて書かれている。」「登場人物の言動や情景描写などから、登場人物の心情やものの見方を想像することができる。」というように、「この教材にはこんな特長がある。」「だから、このこと（指導事項）を指導するのに適している。」「この教材を通してこのような力を身に付けさせたい。」ということを明らかにします。

指導書等を参考にする場合には、いろいろな情報の中から本単元のねらいに沿ったことを取捨選択することが必要です。

このようにして実態把握と教材研究を往還しながら単元構想を進めます。その単元で身に付けさせたい力を明確にすることが大切です。



2 単元目標の設定と単元計画の構想

(1) 単元目標を設定する。

ア 児童生徒の実態、指導事項（身に付けさせたい力）と教材の特長を考え合わせて、単元目標を設定する。

例えば、説明的な文章を扱うとき、書かれている内容を理解することを主にする場合もあれば、要旨をまとめたり、文章構成など表現の仕方を学んだりすることを主にする場合もあります。もちろん、その両方を一度に扱うこともあります。児童生徒の実態や年間計画によって目標を設定します。

イ 単元目標は「3点セット」を基本に構成する。

単元目標は、学習指導要領を踏まえて次の3つの観点で設定します。

- ・「国語への関心・意欲・態度」

- ・「聞く・話す」「書く」「読む」などの「領域の指導事項」

…基本的に1単元に1領域で設定し、選択した指導事項を、児童生徒の実態や教材に合わせて具体化します。

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

(2) 評価規準を設定する。

単元目標に即して評価規準を設定します。いつ、どのような方法で評価するかも計画しておきましょう。

(3) 単元計画を立てる。


ア 「学習のめあて」（単元を貫く学習課題）を構想する。

単元を構想する際には、児童生徒が学習の目的や見通しをもてるよう、「学習のめあて」を設定します。一次でそれを児童生徒と共有することで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができます。「読むこと」の単元においても、児童生徒が、何のために教材文を読むのか、教材文を読んでどうするのかという課題意識をもてるようにすることが大切です。

イ 各時間の目標や展開を考える。

授業における目標は具体的な児童生徒の姿で考えます。その時間において、どんな姿を求めているのか、何がどこまでできればよいかを思い描きながら設定します。その際、一時間のねらいはできるだけ絞りましょう。

また、各時間の「導入・展開・まとめ」は、できるだけ同じパターンとなるようあらかじめ計画しておきます。パターン化することで、児童生徒たちは授業に見通しをもち、主体的に取り組めるようになります。

 各教科の目標設定や単元計画、評価など授業づくりについて、参考となる資料

「静岡県の授業づくり指針」（あすなろホームページ）

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）



「授業づくり指針」トップページ